

## V122c SKA1 サブプロジェクト科学部門報告 2026 春

町田真美、廣田朋也 (国立天文台)、酒見はる香 (山口大学)、嵯峨承平 (名古屋大学) 他 SKA1 サブプロジェクト

SKA1 サブプロジェクト科学部門は、SKA-JP の活動支援、国際 SWG の検討状況の調査、コミュニティの研究活動促進に向けて、先行機の解析講習会などを行っています。国際的な活動としては、2027 年に迫る AA\* に向けた初期科学検討を行う国際会議が 2025 年 6 月 16 日ー 20 日にドイツ Görlitz にて開催されました。この会議では、初期観測ターゲットの検討を行う重要な会議で、日本からは、口頭講演 4 件、ポスター講演 5 件参加しました。また、SKAO が刊行する Science book の改訂に際し、日本からは、10 件の PI 論文、13 件の寄与論文を投稿し、査読にも多くのメンバーが協力しています。日本国内では、宇宙磁場グループと星間現象グループ合同の研究会 (3 月)、解析講習会の運営に強力しています。コミュニティが初期科学観測参加するための準備の一貫として、MeerKAT プロポーザル講習会 (7 月) を行いました。MeerKAT プロポーザル講習会においては、プロポーザルの書き方、感度計算の講習のみならず、個々のプロポーザル作成にも協力し、本年度も 3 件のプロポーザルが採択されるなど、着実に成果を上げています。コミュニティに対して行った業績調査では、2024 年度における競争的資金の獲得は 8,727 万円 (間接経費込)、学生輩出は修士 14 名でした。査読論文数は 27 件と減少傾向が継続していますが、これは、先行機データの解析ツール作成に時間がかかることに加え、SRC や AIV などのシステム構築に注力していることが原因と推測しています。科学面に加えて、SKA 参加後に向けた貢献ポリシー作成準備を行っています。